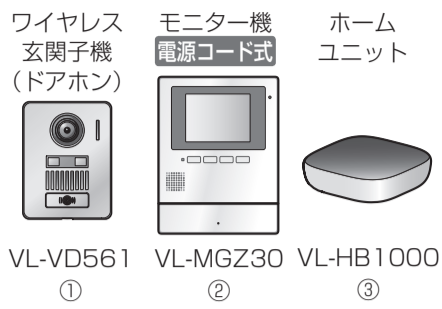


## 設置説明書

<b>モニター壁掛け式 ワイヤレステレビドアホン</b>	
アイエルエージーセット 品番 <b>VL-SGZ30</b>	(右記①②の セット)
<b>モニター壁掛け式 ワイヤレステレビドアホンキット (ホームネットワークシステム)</b>	
アイエルエージーセット 品番 <b>VL-SGZ30K</b>	(右記①②③ のセット)



- ### 設置をされる方へ
- 設置説明書をよくお読みください。特に「安全上のご注意」は、設置前に必ずお読みください。設置説明書に記載されていない方法や、指定の部品を使用しない方法で設置されたことにより事故や損害が生じたときには、当社では責任を負えません。また、その設置が原因で故障が生じた場合は、製品保証の対象外となります。
  - 電源配線工事には、電気工事士の資格が必要です。
  - 電源プラグキャップおよび包装材料は、商品を取り出したあと適切に処理をしてください。
  - 設置終了後は、必ず本書をお客様にお渡しください。
  - 本書の表記について
    - 製品によって操作や説明などが異なる箇所は、品番を分けて説明しています。(品番は識別しやすいように、「VL-SGZ30」を「SGZ30」、「VL-SGZ30K」を「SGZ30K」のように記載しています)
    - ワイヤレス玄関子機は「ドアホン」と表記しています。

〈SGZ30K〉の設置について  
ホームユニット(VL-HB1000)はシステムの主装置です。ドアホンやモニター機の設置の際にも、必ずホームユニットの電源を入れておいてください。

- ホームユニットの電源が入っていないと、ドアホンやモニター機が動作しないため、設置時の動作確認ができません。

## 1 付属品の確認

ご確認のうえ、不備な点がございましたら、お買い上げの販売店へお申し付けください。

<b>ドアホン用</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>壁掛け用ねじ(2個) (4 mm×25 mm)</li> <li>防水シート(2枚)</li> </ul>	<b>モニター機用</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>壁掛け用木ねじ(2個) (4 mm×16 mm)</li> <li>壁掛け用小ねじ(2個) (4 mm×25 mm)</li> <li>壁掛け金具(1個) モニター機の背面に装着されています。外してから使います。</li> <li>〈金具の外しかた〉 金具を下方方に強く押し下げたあと図のように取り外す</li> </ul>
<b>ホームユニット用</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>ACアダプター(1個) (コードの長さ：約1.8 m)</li> <li>壁掛けアダプター(1個)</li> </ul>	

- ドアホンは電池式です。電池は付属されていませんので、市販の単3形電池(6本)をご用意ください。  
推奨電池(パナソニック製)：エネループハイエンドモデル 充電式ニッケル水素電池ハイエンドモデル
- 上記以外の「充電式ニッケル水素電池」「アルカリ乾電池」「リチウム乾電池」も使えますが、ご使用にあたっては注意が必要です。(詳細は取扱説明書P.34)
- ドアホンやモニター機を取り付ける壁の材質によって付属のねじが使えない場合は、材質に合わせて市販のアンカーなどをご使用ください。

パナソニック株式会社 コミュニケーションプロダクツ事業部  
〒812-8531 福岡県福岡市博多区美野島四丁目1番62号  
© Panasonic Corporation 2018



## 2 安全上のご注意 必ずお守りください

人への危害、財産の損害を防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。  
■ 誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を区分して、説明しています。

- 危険** 「死亡や重傷を負うおそれがある内容」です。
- 警告** 「死亡や重傷を負うおそれがある内容」です。
- 注意** 「軽傷を負うことや、財産の損害が発生するおそれがある内容」です。

■ お守りいただく内容を次の図記号で説明しています。

- 禁止 してはいけない内容です。
- 実行しなければならぬ内容です。

## 電池の取り扱い (市販の充電式ニッケル水素電池・アルカリ乾電池・リチウム乾電池)

- 危険**
  - 発熱・発火・破裂・液もれを防ぐために
    - 分解・修理・改造しない
    - 火の中に捨てたり加熱しない
    - (+) (-) 端子を金属などに接触させない
    - ネックレス、ヘアピンなどと一緒に持ち運んだり保管しない
- 禁止
  - (+) (-) は正しく入れる
  - 市販のニッケル水素電池は専用充電器で充電する

## 事故などを防ぐために

- 禁止
  - 液もれしたときは、「液」に触れたり目に入れない  
(皮膚や衣服に付いたり目に入ると、皮膚の障害や失明などの原因)  
→ 皮膚や衣服に付いたときは、すぐにきれいな水で洗い流してください。目に入ったときは、こすらず、すぐにきれいな水で洗ったあと、直ちに医師の治療を受けてください。

## 警告

- 発熱・発火・破裂・液もれを防ぐために
  - 禁止
    - 状態の異なる電池を混用しない  
・新旧の電池、種類(充電式と乾電池、アルカリとリチウムなど)の異なる電池、銘柄、電池容量・充電状態(充電式の場合)の異なる電池など
    - 乾電池を充電しない
  - 使用なくなった電池はすぐに取り出す  
長期間使わないときは、機器から電池を取り出す
  - 漏液や異臭時は火気から遠ざける

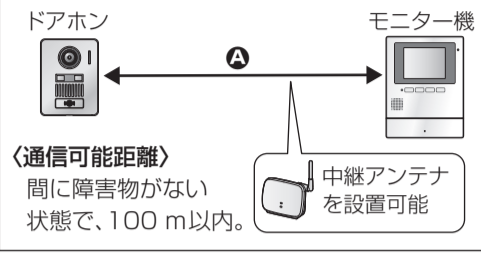
## 注意

- 発熱・発火・破裂・液もれを防ぐために
  - 禁止
    - 指定の電池以外は使用しない
    - 水などの液体でぬらすない
    - 電池に強い衝撃を与えたり、投げつけたりしない
    - ストーブのそば、直射日光の強いところなど高温の場所で使用・放置しない

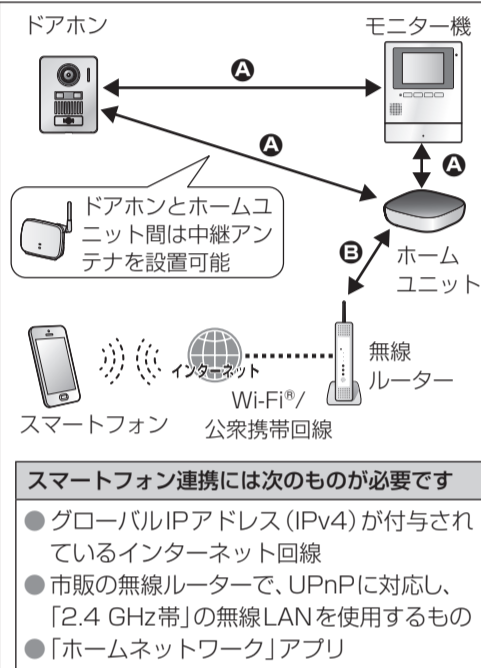
## 3 設置の前に

機器間の通信について  
本製品は、電波(電波)によって通信を行います。  
● DECT準拠方式の電波(1.9 GHz帯)  
● 無線LANの電波(2.4 GHz帯)

### ■ テレビドアホンとして使うとき (SGZ30) をそのまま使う



### ■ ホームネットワークシステムとして使うとき (SGZ30) をホームユニットと接続、または SGZ30K をご使用のとき



〈電波Aの通信可能距離〉  
● モニター機とホームユニット間に障害物がない状態で、70 m以内。  
● その他の機器間に障害物がない状態で、100 m以内。

〈電波Bの通信可能距離〉  
ホームユニットとスマートフォン(宅内使用時は、無線ルーターの電波が届く範囲内で使用ください)。  
● ホームユニットと無線ルーター間の電波状態は、ホームユニットの初期設定後スマートフォンを使って確認できます。  
● スマートフォンと無線ルーター間の電波状態の確認方法は、スマートフォンの取扱説明書をお読みください。  
● 複数の無線アクセスポイントが存在し、同じチャンネルを使用していると、正しく検索できない場合があります。

### 電波による通信の特性について

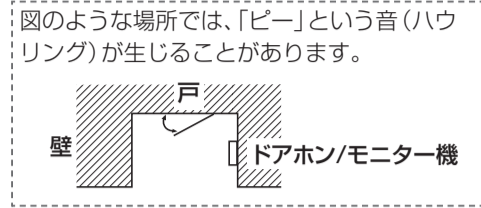
- 機器間の距離が離れていたり、間に次のように電波を通しにくい(または電波を反射する)障害物があると、電波が弱くなります。
  - ・複層ガラスの窓
  - ・金属製のドア・雨戸・シャッター
  - ・アルミはく入りの断熱材が入った壁
  - ・コンクリートやタタンの壁
  - ・壁を何枚かへだてたところ
- 各機器を、別の階や家屋で使うとき
- 電波が弱いと、プツプツ音、通話の途切れ、映像の乱れや更新の遅れが起きたり、電波が圏外となってしまうことがあります。
- 補聴器をお使いの場合、種類によっては雑音が入る場合があります。
- その他、電波(通信方式)についての詳細は、取扱説明書のP.37をお読みください。

### 中継アンテナについて

- 電波が弱い場合に設置すると改善できます。ただし、上図のホームネットワークシステムで設置できるのは、ホームユニットとドアホン間のみです。
- 中継アンテナで無線LANの電波Bは中継できません。(無線LAN非対応)

## こんなところに設置しない

変形・故障・動作障害などを防ぐために避けて欲しい場所  
〈ドアホンやモニター機共通〉  
● 振動、衝撃のあるところ  
● 反響の多いところ



- 硫化水素、アンモニア、硫黄、ほこり、有毒ガスなどの発生するところ
- 〈モニター機やホームユニット共通〉  
● 火気・熱器具・冷暖房機の近く  
● 直射日光の当たる場所  
● 温度変化が激しく結露が発生する場所

- 〈ドアホン〉  
● 凹凸が大きき外壁
- 〈ホームユニット〉  
● ピアノなどの上  
・ 傷、熱によるひびわれ、変色の原因になります。  
● 冷蔵庫や水槽など、金属物の近く  
・ 電波が届きにくくなります。

## 電波干渉によるノイズなどを防ぐために避けて欲しい場所

- 〈モニター機やホームユニット共通〉  
● テレビ、ラジオ、パソコンなどのOA機器、エアコン、給湯器リモコン(インターホン機能付き)、ホームセキュリティ関連装置の近く  
● CSデジタル放送受信機器(チューナー、チューナー内蔵のデジタルテレビ、レコーダーなど)の近く  
● CSデジタル放送の画像が乱れる原因になります。(受信機器から離れて設置しても、特定チャンネルの画像が乱れる場合は、テレビドアホンの取扱説明書P.42参照)

- 〈ホームユニット〉  
無線LANの電波干渉による悪影響の防止のため、次の機器からも離してください。  
● 電子レンジ  
● ワイヤレスAV機器(テレビ、ステレオ、パソコンなど)  
● その他(以下の機器も影響が出る場合あり)  
・ ゲーム機ワイヤレスコントローラー  
・ 防犯システム(書店やCDショップなど)  
・ アマチュア無線局  
・ 工場や倉庫など物流管理システム  
・ 鉄道車両や緊急車両管理システム  
・ マイクロ波治療器  
・ その他、Bluetooth®対応機器やVICS(道路交通情報通信システム) など

## モニター機の設置工事について

- 電気設備技術基準に従って設置してください。  
・ 金属ボックスを使用する場合はD種設置を行うこと。  
・ 配線材(電源線)はAC600 V以上の絶縁電線を使用すること。
- 電源は、必ず遮断装置を介した次のいずれかの方法で接続してください。  
(1) 電源コンセントの近くに設置し、遮断装置(電源プラグ)に容易に手が届くこと。  
(2) 3 mm以上の接点距離を有し、容易にアクセス可能な分電盤のブレーカーに接続する。ブレーカーは保護アース導体を除く主電源のすべての極が遮断できるものを使用すること。

## 電源プラグやACアダプターを差し込む位置は

モニター機の電源プラグやホームユニットのACアダプターは、各機器の設置場所の近くで抜きやすい場所にあるコンセントに差し込み、異常が起きた場合にコンセントからすぐに抜けるようにしておいてください。

## 気をつけていただきたいこと

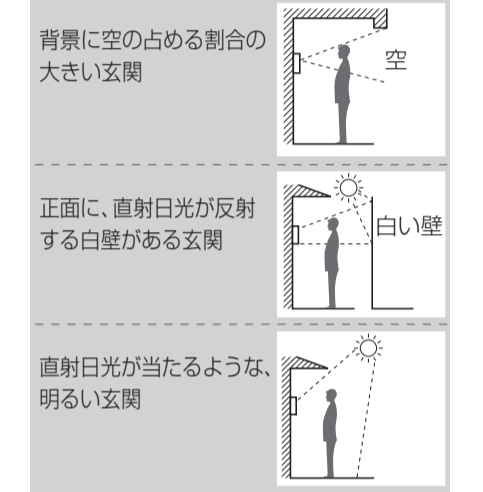
プライバシー・肖像権について  
ドアホンの設置や利用については、ご利用になるお客様の責任で被写体のプライバシー、肖像権などを考慮のうえ、行ってください。  
※「プライバシー」は、私生活をみだりに公開されないという法的保障のない権利、もしくは自己に関する情報をコントロールする権利。また、肖像権は、みだりに他人から自らの容ぼう・姿態を撮影されたり、公開されない権利」と一般的に言われています。

### 通信の傍受について

本製品はデジタル信号を利用した傍受されにくい商品ですが、電波を使うため、第三者が故意に傍受するケースも考えられます。

### その他

- 〈ドアホン〉  
● 底面の水抜き穴をふさがないでください。(内部に水がたまり、故障の原因になります)
- 下図のように、逆光になる場所への設置は避けてください。(来訪者の顔が暗く映り、識別しにくくなります)



- ドアホン周囲の温度差でドアホンのレンズカバーが結露し、映像が見えにくくなる場合がありますが故障ではありません。
- 取り付け場所に壁穴が開いているときは、断熱材(発泡スチロールなど)を用いて、壁穴を埋めるか、壁とドアホンの間に挟みと結露しにくくなります。
- 近傍に照明がある場合、遮光や減光が必要な場合があります。(照明光の映り込みや夜間の映像劣化防止)

### 〈ドアホン・モニター機共通〉

- ドアホンとモニター機間は5 m以上離してください。(ハウリングなどの通話障害や通話の途切れ防止)
- 機器の上下左右には、下記のための空間を20 cm以上とってください。  
・ 誤動作や通話の途切れ防止  
・ 他の機器への電波干渉防止  
・ ドアホンのねじの取り付け/取り外し  
・ 携帯電話の基地局やテレビ局の近くなど、強電界地域や電波を発する無線局周辺では、映像や音声にノイズなどが入ることがあります。

### 〈モニター機・ホームユニット共通〉

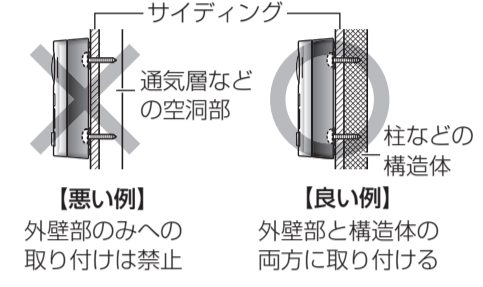
- 壁を深くくぼませたスペースへの設置はできるだけ避けてください。  
(誤動作や通話の途切れ防止)
- 本体を埋め込まないでください。
- 〈その他(商標について)〉  
● Wi-Fi は Wi-Fi Alliance の登録商標または商標です。  
● Bluetooth® ワードマークは Bluetooth SIG, Inc. が所有する登録商標です。

## ドアホンを設置する外壁材の種類に応じた注意事項

### サイディングの場合

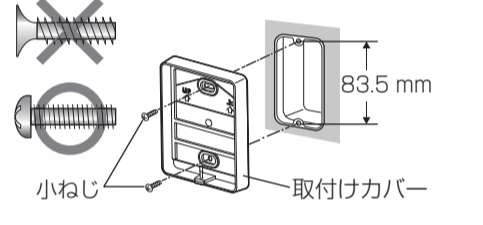
- 付属のねじをお使いください。設置場所のねじの引き抜き強度は、1本あたり196 N(20 kgf)以上が必要です。
- サイディング外壁だけで重量を支えるとサイディングが損傷するおそれがあります。必ず、サイディングの内側にある柱などの構造体で支持できる場所に設置してください。サイディングの厚みなどにより構造体で支持できない場合は、市販のねじ(呼び径4.0 mm、長さ25 mmより長いもの)を使用してください。
- サイディング用ドリルで下穴を開け、穴開け後は粉を取り除いてください。

【お願い】  
サイディングの内側の構造体には、下穴を開けないように注意してください。



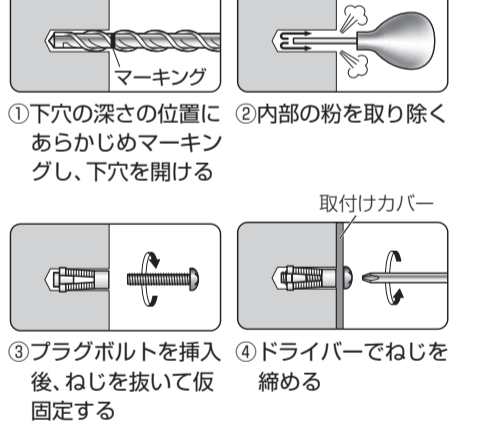
### スイッチボックス(JIS1個用)の場合

- 付属のねじ、スイッチボックスに付属のねじ、ねじ頭部が形状のねじ(下図)は使えません。(取付けカバーが変形する原因になります) 市販の小ねじ(呼び径4.0 mm、長さ20~30 mm、ねじの先端が尖っていないもの)をお使いください。



### コンクリートの場合

- 付属のねじは使えません。市販のコンクリート用プラグボルト(ねじの呼び径4.0 mm、かつ、φドライバーで締められるタイプ)をお使いください。それ以外のタイプのねじでは取り付けできません。
- 取り付け前にプラグボルトの説明書をお読みください。ドリル径と穴の深さを確認してから、次の手順でプラグボルトを壁に取り付けてください。



### ALC(軽量気泡コンクリート)の場合

- ALCパネルの種類(厚みなど)によっては取り付けられない場合もあります。取り付け前に、ALCパネルメーカーにお問い合わせください。

### 〈取り付け可能な場合〉

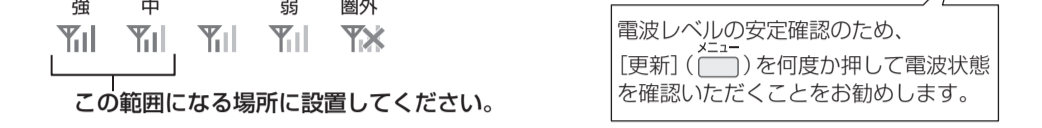
- 付属のねじは使えません。必ず、市販の金属製のALC用アンカー(ねじの呼び径4.0 mm、かつ、φドライバーで締められるタイプ)をお使いください。それ以外のタイプのねじでは、取り付けできません。
- 取り付け前にアンカーの説明書をお読みいただき、ドリル径と穴の深さを確認してから、アンカーを壁に取り付けてください。
- ALC用ドリルで下穴を開けたあとは、粉を取り除いてください。
- 下穴の周囲部を防水シール材(市販品)で防水処理をしてください。

### その他の壁(モルタル・タイル材など)

- 付属のねじは使えません。住宅会社または工務店にお問い合わせのうえ、適切なねじやアンカーを使って取り付けてください。
- 石こうボード、コンクリートブロック、屋外に露出した木材などには設置できません。

## 4 利用開始までの設置や準備の流れ

本製品は電波を使って機器間の通信を行います。  
【設置の前に】に記載されている電波の特性などを十分にご理解いただき、下表の流れに沿って、電波が強くまた安定して届く場所に各機器を正しく設置してください。  
● 各機器の電源を入れ、モニター機の日時(時計)設定が終わると、モニター機の〈アンテナ・電池の情報画面〉で電波レベルを確認できます。  
● 上記の画面で電池残量表示が「更新」になるときは、ドアホンの呼出ボタンを押してモニター機の映像を確認したあと、再度、上記の画面を表示して電波レベルを確認してください。



### テレビドアホンのみでご利用になるとき

- 1 ドアホンを設置する**  
電池の入れかたや設置方法は裏面をお読みください。
- 2 モニター機を設置する**  
モニター機の電源を入れ、右記の条件を満たす場所に設置します。  
● 設置方法は裏面をお読みください。  
● 電波が弱く、設置場所を移動できないときは、別売の中継アンテナを設置してください。(詳細は取扱説明書P.27を参照)
- 3 動作を確認する**  
ドアホンの呼出ボタンを押し、モニター機で呼出音が鳴り、映像が映ることを確認します。

### ホームネットワークシステムとしてご利用になるとき

- A SGZ30** をホームネットワークシステムに接続して使う
  - B SGZ30K** を無線ルーターなどに接続して使う
- 各機器の電源を入れた状態で設置を始めてください。(ドアホンの電池の入れかたは→裏面)

- 1 ホームユニット・無線ルーター・スマートフォンの接続設定をする(初期設定)**  
● SGZ30 の場合は、別売のホームユニットに付属の「かんたん接続ガイド」や「設定ガイド」に従って設定します。  
● SGZ30K の場合は、付属の「スマートフォン連携 接続設定ガイド」に従って設定します。

### 2 (SGZ30の場合のみ) テレビドアホンをホームユニットに接続(登録)する

- 次の手順で接続(登録)します。  
①ホームユニットのソフトウェアや「ホームネットワーク」アプリのバージョンを最新に更新する(更新方法→取扱説明書P.28)  
②モニター機からドアホンを減設する(減設方法→取扱説明書P.32)  
③減設したドアホンやモニター機を、ホームユニットに登録する(登録方法→取扱説明書P.28)

### 3 機器の動作を確認する

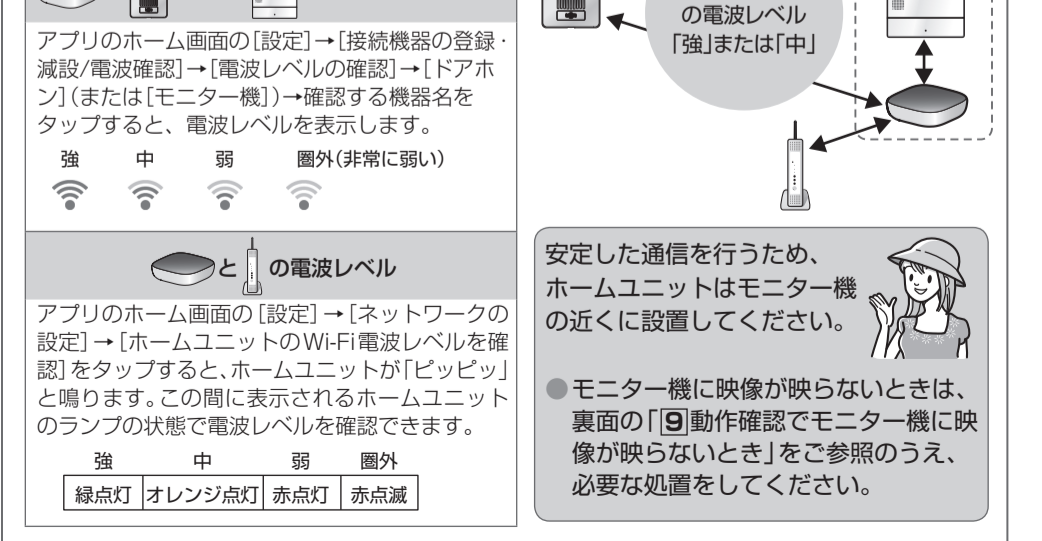
各機器を近くに置いた状態で、ドアホンの呼出ボタンを押し、モニター機やスマートフォンに映像が映ることを確認します。

### 4 ドアホンを設置する

設置方法は裏面をお読みください。

### 5 モニター機とホームユニットを設置する

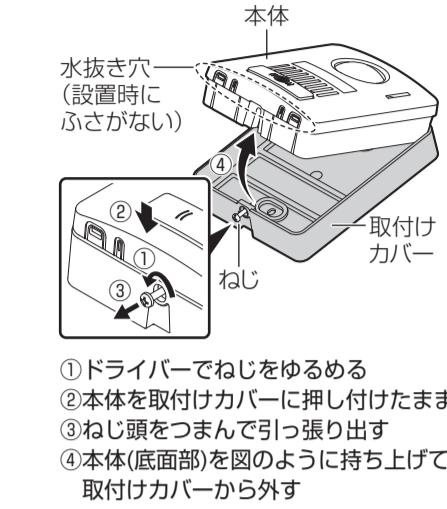
- 次の手順で設置します。  
①モニター機の設置場所に、モニター機とホームユニットを移動して電源を入れる  
②右下図の条件を満たす位置に、モニター機とホームユニットを設置する(設置方法→裏面)



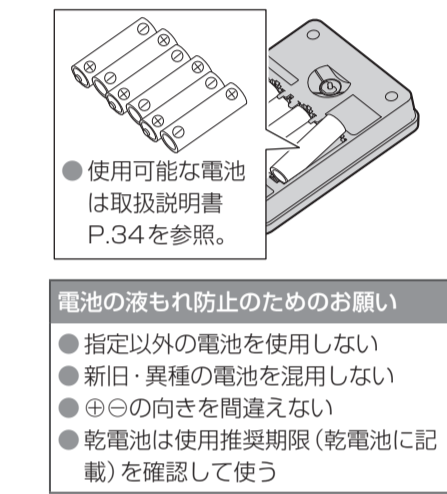
## 5 ドアホンの電池の入れかた

電池のサビや動作不良防止のため、ドアホン内部と電池をぬらさないよう注意してください。

### 1 取付けカバーから本体を外す



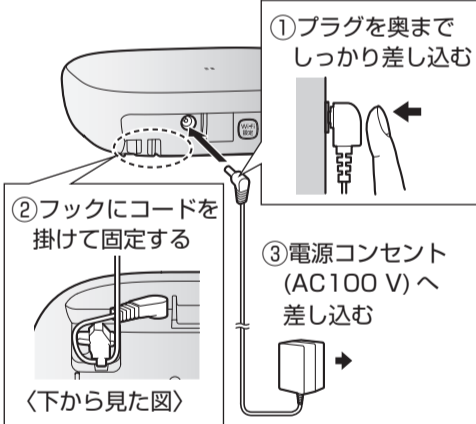
### 2 新品の単3形電池(6本)を正しく入れる



## 6 ホームユニットの設置方法 SGZ30K

### ACアダプターの接続

付属のACアダプターを図のように接続してください。



### お願い

- ACアダプターは常時接続しておいてください。(ACアダプターが熱くなることがありますが、異常ではありません)
- ACアダプターは、壁か床に据え付けの電源コンセントに接続してください。天井に据え付けの電源コンセントでは、ACアダプターの重みで外れる場合があります。

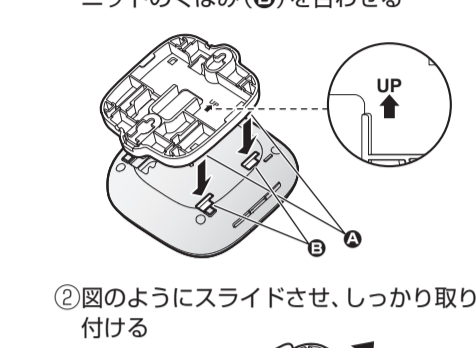
## ホームユニットを壁掛けするとき

付属の壁掛けアダプターと、別売品の壁掛け用木ねじ・ワッシャー(取扱説明書P.33)を使うと壁掛けすることができます。

### 1 付属のACアダプターをホームユニットに接続する(左手順①②を参照)

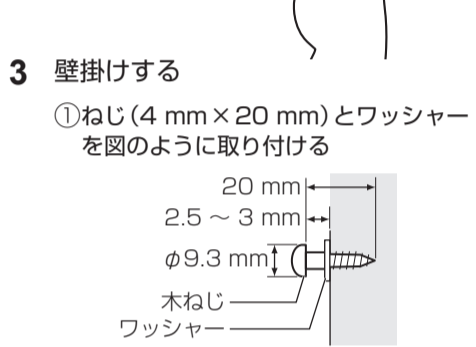
### 2 付属の壁掛けアダプターをホームユニットに取り付ける

①「UP」の表示を上向きにした状態で、壁掛けアダプターの突起(▲)とホームユニットのくぼみ(◎)を合わせる

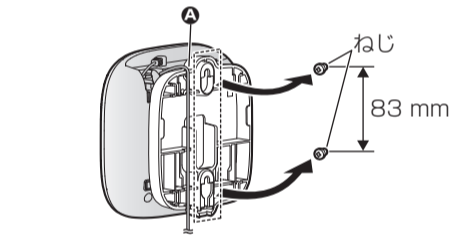


### 3 壁掛ける

①ねじ(4mm×20mm)とワッシャーを図のように取り付ける

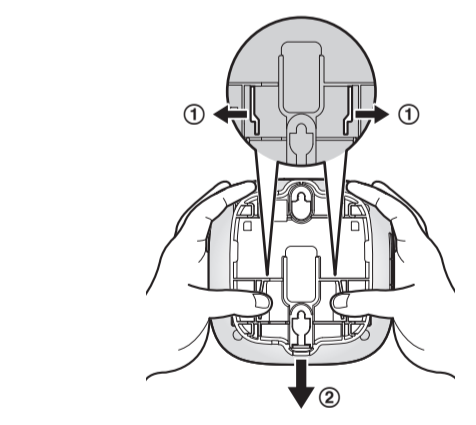


②ACアダプターのコードは、挟み込み防止のため壁掛けアダプターのくぼみ(▲)に通し、取り付け穴をねじに掛けて押し下げ、しっかり固定する



### 壁掛けアダプターを取り外すとき

ホームユニットから壁掛けアダプターを取り外すときは、中央にあるレバー(①)を開きながら、壁掛けアダプターを押し下げます(②)。



## 7 ドアホンの設置方法

### 取り付け位置(高さ)と撮影範囲

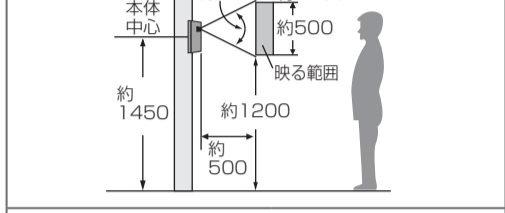
本製品はワイド/ズーム対応です。「ワイド/ズーム設定」および「ワイドの見え方」の設定により、撮影範囲が異なります。(初期値:ワイド(見え方はワイド1)) また、カメラレンズの向きは本体表面の角度調節レバーで調節することができます。

●上記の設定はモニター機で行います。(詳細は取扱説明書P.14、21)

(図中の寸法単位:mm)

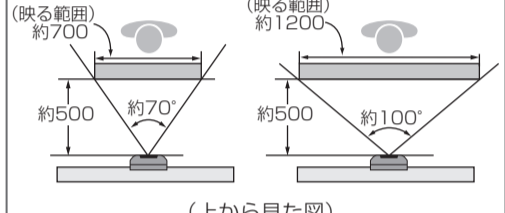
### 「ワイド」時の撮影範囲

◆標準の高さ(約1450mm)にカメラ角度を0°で設置した場合

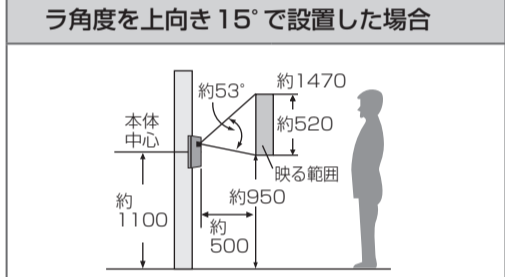


左右(水平)方向の撮影範囲は、「ワイドの見え方(ワイド1/ワイド2)」の設定で異なります。

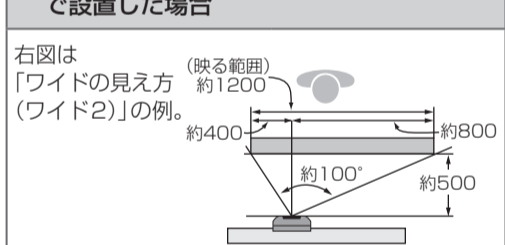
〈ワイド1(初期値)〉 〈ワイド2〉



### ◆標準より低い位置(約1100mm)にカメラ角度を上向き15°で設置した場合



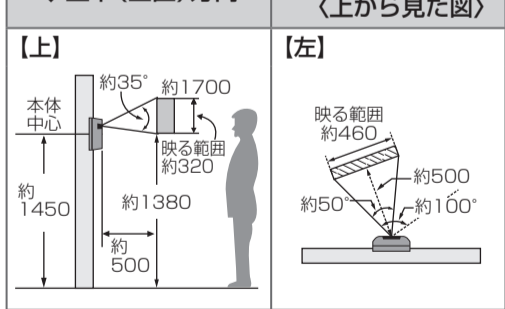
### ◆カメラ角度を右向き(または左向き)10°で設置した場合



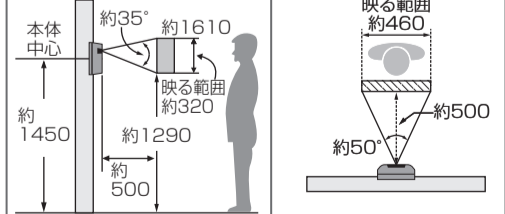
### 「ズーム」時の撮影範囲(カメラ角度0°の例)

ワイドの撮影範囲の一部を縦横約2倍に拡大します。ズーム位置は「ズーム位置設定」で変更できます。下記を参考にモニター機で設定してください。(詳細は取扱説明書P.15)

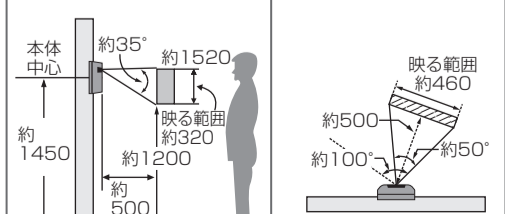
### ◆上下(垂直)方向 ◆左右(水平)方向(上から見た図)



### [中央]お買い上げ時 [中央]お買い上げ時



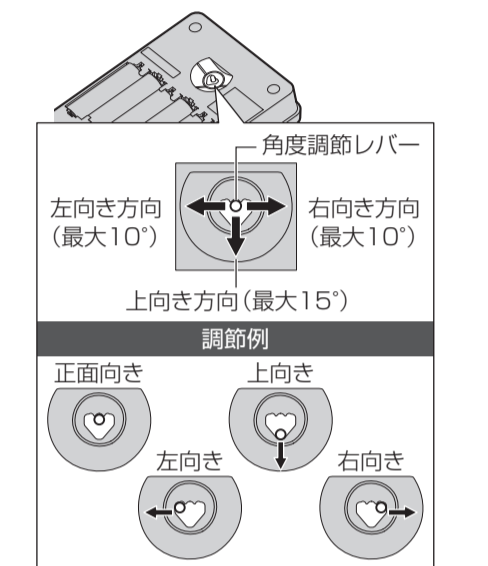
### [下] [右]



### 壁への取り付けかた

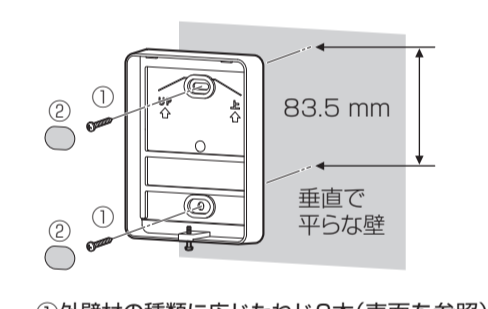
- エントランスホールやサインポストへの取り付けはできません。また、別売のカメラ角度調節台も使えません。
- 外壁材の種類によって、使えるねじや取り付けかたが異なります。必ず表面の「ドアホンを設置する外壁材の種類に応じた注意事項」をお読みいただき、工事に必要な場合は、販売店または専門の工事に依頼してください。
- 機器内部と電池はぬらさないように注意してください。(電池のサビや動作不良防止)

### 1 取り付け位置に応じてカメラレンズの角度を調節する



- 上向き(15°)にすると、左または右向きには調節できません。
- 下向きや、左上(または右上)向きには、調節できません。

### 2 取付けカバーを壁面に取付ける



①外壁材の種類に応じたねじ2本(表面を参照)を使ってしっかり取り付ける

●サイディング壁には付属のねじ(4mm×25mm)が使えます。

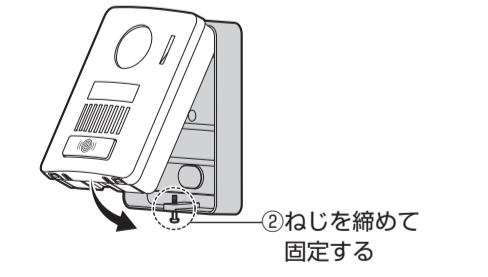
●取付けカバーのねじ穴は防水ゴムでふさがれています。先端の尖ったものでねじの取り付け位置にあらかじめ穴を開けてください。

●ねじを締め付けすぎないでください。(防水ゴムが破れる、または取付けカバーが変形・破損して本体が取り付けられなくなる原因)

②付属の防水シート2枚を、ねじ止めた部分にしっかり貼り付ける

### 3 本体を取付けカバーに固定する

①図のように、先に本体の天面部を取付けカバーに入れて底面部を押し込む

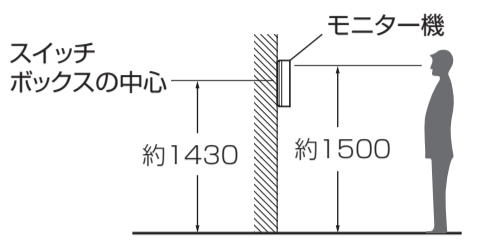


## 8 モニター機の設置方法

### 本体と壁掛け金具の取り付け位置

(図中の寸法単位:mm)

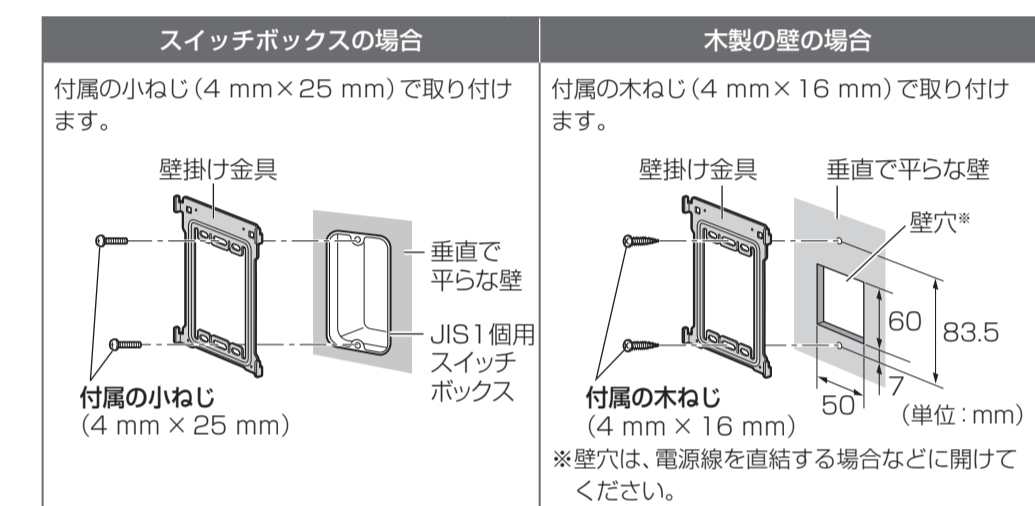
●本体は、よくご利用になる方の目の高さになる方の中心がくるよう取り付けてください。(下図は、画面の中心を床から約1500mmの高さにするときの例です)



(取り付けを行う前に)必ず、モニター機の設置場所で電波の確認を行い、ドアホンの映像が映り、通話ができることを確認してください。

### 壁への取り付けかた

#### 1 付属の壁掛け金具を壁面に確実に取り付ける



パネル壁(石膏ボード)の場合 ●落下防止のため、必ず、下記のとちらかの方法で取り付けてください。

#### ◆パネル壁に穴を開け、はさみ金具を使って取り付ける

下記の(ナゾニック(株)製の)はさみ金具を使って、取り付けてください。  
品番 WN3996020(20個入り)\* 対象壁 9mm~30mm厚の石膏ボード  
※単品でのお取り扱いについては、販売店にお問い合わせください。

①はさみ金具を壁面の裏側に入れる

②▲部・◎部を図のように折り曲げ、はさみ金具を壁面に仮固定する

③壁掛け金具とはさみ金具を、ねじて仮止める

④▲部・◎部を壁端面まで戻し、ねじを締め固定する

●▲部・◎部を、壁掛け金具と壁面に挟み込まないようにしてください。

#### ◆パネル壁に、市販の石膏ボード用アンカーで取り付ける

①市販の石膏ボード用アンカー(2個)を壁面に取り付け(詳細は、ご購入の石膏ボード用アンカーの説明書に従う)

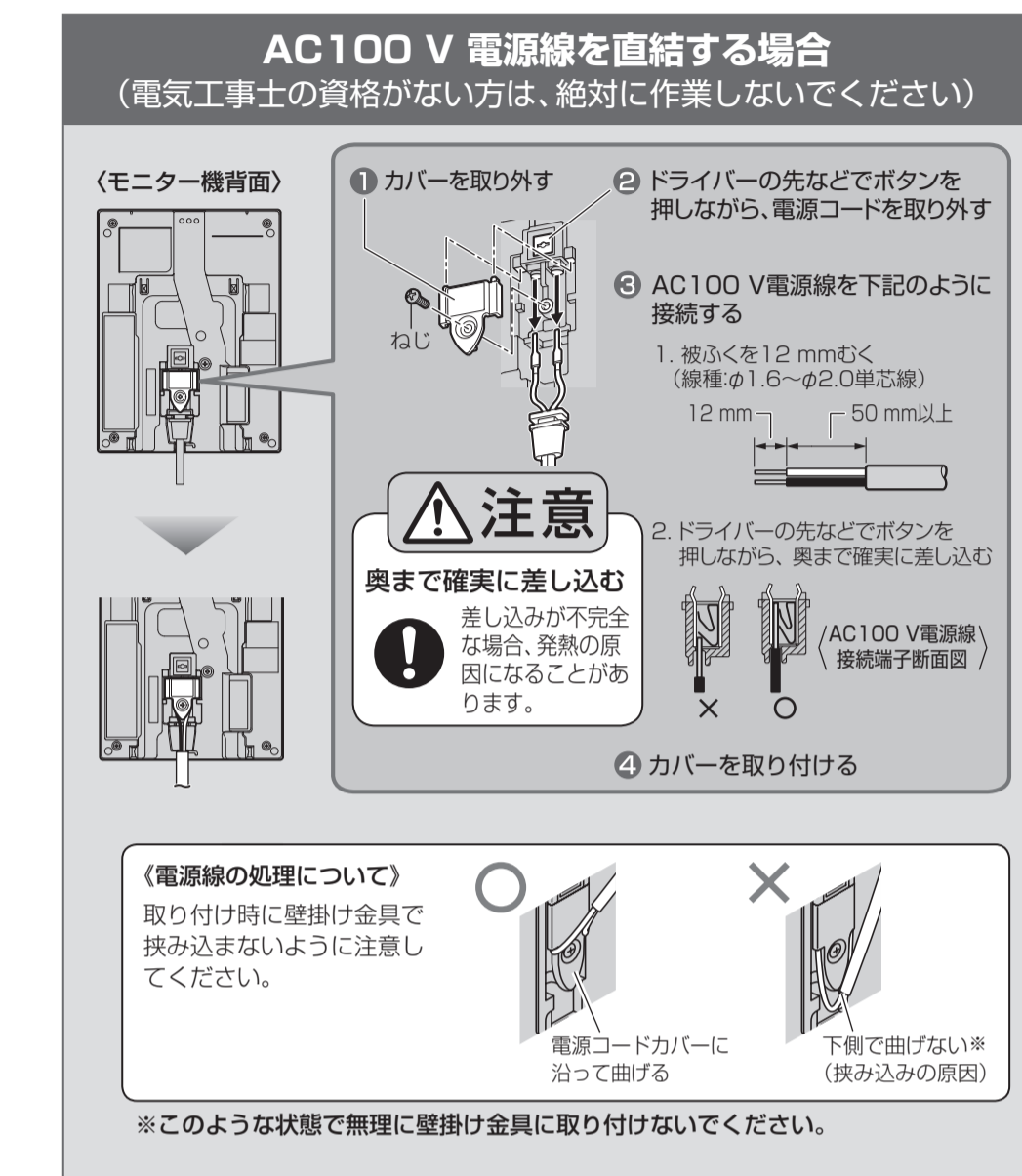
②アンカー用のねじで、壁掛け金具を石膏ボード用アンカーに取り付ける

〈ご注意とお願い〉 ●石膏ボード用アンカーを使用せず、付属のねじなどを石膏ボードに直接締め込んだ場合、保持強度が保てず、製品が落下するおそれがあります。

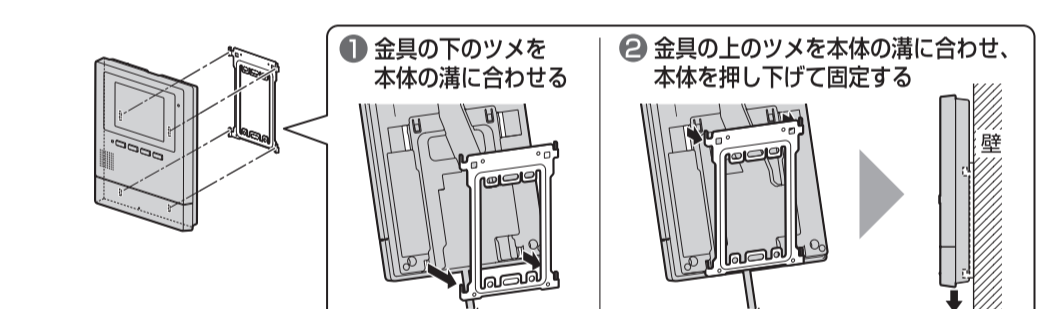
●石膏ボード用アンカーは、金属製のカサ式ボードアンカーの使用をお勧めします。(ねじ込み式は使わないでください)

●不明な点については、販売店や専門の工務店、ご相談窓口にご相談ください。

- 電源線を直結する場合 : 下記の直結工事を行う
- 付属の電源コードを使用する場合 : 手順3へ



### 3 壁面に取付けた壁掛け金具に、モニター機を固定する



〈付属の電源コードは〉 ●電源プラグのキャップを外して、コンセント(AC100V)に差し込んでください。 ●落雷による機器の故障を防止するために、雷サージ防止付きのコンセント(市販品)に差し込むことをお勧めします。

## 9 動作確認でモニター機に映像が映らないとき

設置場所での動作確認でモニター機に映像が映らない場合は、機器の設置場所に問題があります。モニター機で確認した電波レベルの状態に応じて必要な処置をしてください。

